



学校教育目標 社会に貢献しながら、
自立する生徒の育成
～気づき、考え、実行する～

やまゆり

校訓 「和の心」

指導重点

- ① 居心地がよく、やる気のある
学級集団・学校づくり
- ② 確かな学力の育成
- ③ 豊かな心の育成
- ④ 健やかな身体の育成
- ⑤ 特別支援教育の推進
- ⑥ 生徒の良さを伸ばし、課題を解決するための
「連携・協働」の推進

令和7年度スタート

入学式・新任式・始業式

令和7年度がスタートしました。本校は、創立 79 周年、平成 27 (2015) 年の新校舎竣工を経て、平成 29 年 (2017) 年の小・中学校施設一体型校舎での学校生活開始から 8 年目を迎えました。校訓を「和の心」と

し、学校教育目標は「社会に貢献しながら、自立する生徒の育成～気づき、考え、実行する～」としています。これまで、諸先輩が築き上げた、よき伝統が引き継がれ、多くの成果をあげてきました。今年度も教職員が一丸となり、取り組みます。地域や保

護者の皆様方のさらなるご支援とご協力をお願い申し上げます。

新しい自分づくり の出発です！

令和7年度の入学式は、4月4日（金）に行われました。新入生の皆さん、保護者の皆さま、ご入学おめでとうございます。入学式に続いて、新任式、1学期始業式を行いました。本校では、7名の新入生を迎え、全校生徒 23 名でスタートします。

私（学校長）の式辞を紹介します。1日1日を大切に“新しい自分づくり”に挑戦して欲しいという願いを込めました。お互いに切磋琢磨していきましょう。

学 校 長 式 辞

桜のつばみが色づきだし、春の訪れが感じられる、今日のよき日に、道志村村長、長田富也様をはじめとする、来賓の皆様方のご臨席をたまわり、道志村立道志中学校、令和7年度入学式を挙行できますことを心よりお礼申し上げます。

「子供は、村の宝」として絶大なるご支援により、子供たちの学びの環境を整えていただいております

ことに、この場を借りて感謝申し上げます。

さて、新入生の皆さん、入学おめでとうございます。先生方も先輩たちも、皆さんの入学を心待ちにしていました。今日から皆さんは、道志中学校の生徒の一員です。こうして皆さんの表情を

見ていると、緊張感とともにこれから始まる中学校生活に、胸をワクワクさせているのではないかと感じ取れます。

「どんな勉強をするのだろうか」

「どんな毎日が待っているのだろうか」

新しい生活を切り拓いていくのは、皆さん一人ひとり、自分自身です。期待と不安の入りまじった、いまの気持ちを大切に忘れずに、スタートしましょう。新入生の皆さん全員が、同じ気持ちです。何事も本気で取り組み、一步一步確実に前に進み、成長していきます。小学生だった頃の自分に「サヨナラ」をして、今日から、みんなで新しい「自分づくり」に挑戦していきましょう。

たった一度の中学生時代を、皆さん一人ひとりの、

自分自身が歩んでいくのです。自分の「良さ」や「長所」を見つけ、発揮してください。また、それと同じくらい、自分の「弱さ」や「短所」を感じるかもしれません。新しい自分の発見に驚き、他の人との違いに、悩み苦しむこともあるかもしれません。そういった自分自身に、真面目に真剣に向き合うことが「大人になること」の第一歩でもあります。

「自分自身の、本当の願いや思いはどこにあるのだろうか」

粘り強く、めげずにあきらめなくて、挑戦を続けてください。ただ、一生懸命努力を続けても、学習のこと、仲間のこと、進路のことで、独りでは解決できないことも出てくるでしょう。そんな時は、家族や仲間、先生方を頼りにしてください。助けを求めてください。自分自身の心と体の健康を保つため「困ったら、我慢せずに相談」してください。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。教職員一同、保護者の皆様と共にお子さまの成長を支え、応援してまいります。

「子供の自立をいかに促すか」

これは子育ての「目的」の一つと考えます。学校と家庭、そして、地域が連携することで、子供の「自立」を支えていきましょう。学校では、積極的に教育活動を進めてまいります。ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

結びになりますが、道志中学校での生活が、新入生の皆さん一人ひとりにとって、未来に向かって大きく飛躍する「新しい自分づくり」のスタートであることを、共に喜んで式辞といたします。

保護者の皆さまへ…

新たな決意で ともに歩みましょう

さて、中学時代は、人生でもっとも難しい時期だといえます。思春期とか反抗期ともいい、心身ともに大きな変化が、子供たちの中に起きつつある時期です。

まだまだ子供だと思っていた我が子が、急に身体も大きく成長し、あまり口を利かなくなったり、よそよそしくなったりします。それまで、買い物や外出に付いてきたのに、親と一緒に行動せず、友だちと過ごす

時間が増え、ある意味では、親として寂しさを感じるかもしれません。場合によっては、我が子ながら、手に負えない状況がうまれるかもしれません。

では、この中学時代の我が子の変化に、どのように対応したらよいのでしょうか。私たち教職員は、この時代の子供たちに、日々接しています。その指導の基本の一つとして“子供たちの自立をいかに促すか”があります。

そこでは、大人としての考え(常識)を伝え、さらに自分(教職員)の考えを伝え、最後は、子供自身の自己決定に任せる過程を大切にしています。知・徳・体をバランスよく育て、責任感を持たせ、自立の道を歩むよう、粘り強く指導や支援を繰り返しています。

そこで、提案があります。家庭でも、機会があるごとに、親としての意見をはっきり述べて、子供自身に決めさせて、責任を持たせる態度で臨んだらいいでしょうか。



ただ、放任主義ではいけません。少し離れたところで、“見守る態度”を保ち、子供自身の選択可能な範囲を広げていくことです。いずれにせよ、子供の成長は、親から離れていくということです。寂しいようですが、これが発達の過程なのです。

今年1年間、家庭と学校とともに手を取り合って、子供たちのためにお互い頑張りましょう。

あいさつで開こう 「心の扉」

私たちの生活はあいさつで始まりあいさつで終わります。また、人との出会いもあいさつから始まります。気持ちのいいあいさつ、すがすがしいあいさつを交わしましょう。“爽やかなあいさつ”は、年間を通して、生徒も教職員も実践していきます。

今年度も道志中学校では、学年・学級の「安定と活性化」を基盤とした教育活動を展開します。

学校だより『やまゆり』は、生徒の様子を紹介する場、教職員の願いや思いを伝える場として、発行します。どうぞ、よろしくお願いいたします。